

令和7年度 学校評価に係る報告書

学校番号	36	学校名	東植田小学校
------	----	-----	--------

学校経営の重点	年間経営目標	自己評価	学校関係者評価	具体的な改善方策
【知識及び技能】 学びあう子	国語、算数の単元末テストで到達目標に達した児童を80%以上にする。	単元末テストが8割以上に達した児童は、学年末国語80%、算数92%で目標を達成できた。	「学校は、学力の向上を心がけ、学力の定着や推進に努めている。」学年末、保護者95%、地域関係者100%、「子どもは、家庭学習の習慣がついている」保護者86%。	○今年度同様、互間授業を行うことで、交流の少ない学年の職員から技術を学べるようにする。 ○3年生以上の学年で、教科担任をさらにすすめ、多くの職員で子どもを育てる土壌をつくる。 ○子どもの考えを確保する時間を確保し、交流する際、いろいろな形に触れることでさらに自分の考えを深化できるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】 考える子	「学校が楽しい」と回答する児童を90%以上にする。	学校が楽しいと感じる児童は、学年末92%で目標を達成できた。 学年末、先手あいさつができた児童93%、自分や友だちに良さがあると思う児童95%で、昨年度より増加した。	「子どもは楽しく学校に通っている。」学年末、保護者95%、「子どもは家庭（地域）ですすんで挨拶をしている。」保護者88%、地域関係者100%	○「あいさつレベル5」表の活用や、「いいね！」を継続して行うことで、定着を図るとともに、地域にも協力を求め、取組の幅を広げていく。 ○「東っこタイム」や「いいところ見つけ」を実施、給食時間の放送で紹介することで、児童の自尊感情をさらに高められるようにする。 ○学期末の「いじめアンケート」に加え、月に1度学校独自の「生活アンケート」を実施し、児童の小さな変化を教師が見逃すことのないようにする。
【学びに向かう力、人間性等】 高めあう子	「チャレンジできた」と回答する児童を90%以上にする。	協力しながら様々な活動に取り組めた児童は、学年末96%で目標を到達できた。 体育の時間にめあてカードを使い、体力がついたり記録が伸びたりした児童は、学年末90%で昨年度より増えた。	「学校は、授業や行事等で、子どもの体力向上に努めている。」学年末アンケート保護者98%、地域関係者100%	○児童が体力向上に意欲的に取り組むため、児童の実態に合わせた内容やがんばりカードを作成するとともに、学年で使い方を共通理解してから利用する。 ○植田南中学校区で共通した準備運動を、体育の時間に行うことで、いろいろな動きを身に付ける。 ○外遊びチャレンジや全校遊びなど、「体を動かすことが楽しい」という場を設定する。

本市重点施策	重点目標	自己評価	学校関係者評価	具体的な改善方策
小中一貫教育の推進	9年間を見通した知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成を目指し、小中合同の研修と学習・生活指導の取組を実施する。	小中一貫のガイドを使って習慣化ができた職員、学習ガイド67%、生活ガイド72%。昨年度より下がったが、学年会などを通して共通理解を図ったり、保護者に対しては通信等で話題にし、周知を行った。 10月の合唱練習、2月の説明会で中学生との交流ができた。授業研究には全員参加し、協議を行った。	今年度同様、児童と生徒が直接交流やICTを活用した活動を計画・実施していく必要がある。	○「学習ガイド」「生活ガイド」の内容を学年集会等で扱ったり、学校での様子を学年通信等で知らせたりすることで、学校だけでなく家庭での習慣化を図る。 ○児童と生徒が直接交流できる活動を年間計画の中に位置づけ、小中が連携して取り組む。
いじめ・不登校への未然防止及びその対応	「未然防止及びその対応が組織的に機能している」と回答する教職員を85%以上にする。	いじめや不登校の未然防止及びその対応が組織的に機能していると思う職員、学年末96%で目標を達成できた。 いじめ・不登校防止対策委員会の日と、SSW来校の日を同日に設定し、外部との連携を積極的に進めることができた。	子どもの困りについて学校は相談に応じけると思う保護者、96%。	○これまで同様、保護者との連携をさらに図ることで、信頼関係の構築を行っていく。 ○学年通信や学校ホームページ等で、児童の様子や学校の方針等を積極的に伝えていく。その際、植田南中学校区の生活・学習ガイドの項目にも触れ、保護者への啓発を図る。 ○気になる児童がいる場合には、まず学年間の理解を行い、職員連絡会の最後に時間を取り、共通理解を行う。
働き方改革の推進	「業務効率の改善が図られている」と回答する教職員を80%以上にする。	業務効率の改善が図られていると思う職員、学年末96%で目標を達成できた。 行事等の資料を校務用PCやロイロノートに保存することで、資料作成の負担軽減ができた。	職員への行事振り返りだけでなく、保護者や地域関係者へのオープンスクールの受付や、学校アンケートなど、昨年以上にロイロノートやform、すぐーの活用が進んだ。	○会議の文書や指導資料を来年度以降も使用できるように、データで保存する。訂正があったときには、すぐに行う。 ○行事の後はFormsを使い、反省や集約がすぐに行えるようにする。 ○職員間の連絡にはTeamsを使い、ペーパーレス化を図る。 ○プレミアム休暇の促進等で休暇が取りやすい環境を整えていく。